

3歳以上無償化以外進展なし

高い保育料・給食費・医療費無料化

昨年度は10月から消費税増税を財源とした「幼児教育・保育の無償化」で3歳から5歳児クラスの子どもたちと住民税非課税世帯の0歳児から2歳児クラスまでの利用料が無料になりました。沼田市は4月から先行実施しました。これ自体は大変歓迎されました。

しかし、保育園では、園児の副食費（主食はもともと自己負担）が保育料（所得に沿った傾斜負担）に含まれた負担であったものが、所得に



保育園のお散歩 タンポポの花摘み

関係なく一律に5,000円/月の負担となりました。保育料の負担が低かった世帯では、消費税の増税分を合わせると、負担軽減どころか負担増になっているとも言われています。せめて「副食費」は、昭和村のように無料にすべきです。

人口ビジョンはより一層の減少へ！少子化対策は最重要課題

昨年度策定された第2次人口ビジョンの推計では、第1次より減少し、2040年には34,065人、2060年には現在の半分以下の22,828人となっており、この人口減少の最大の原因は少子化です。子どもや若者が減少していくまちには未来はありません。建物や施設が新しくなっても少子化は止まりません。市長の言う「ハードからソフトへの転換」は、少子化対策のための「子育て支援」にこそ力を注ぐべきです。3歳以上の保育料は無償化になりましたが、見送られた3歳未満児の保育料こそ「高い保育料」です。高い保育料の解消、給食費の無料化、子どもの医療費無料化の拡大こそ前進させる必要があります。



中心市街地区画整理進捗は44%

中心市街地区画整理事業は1998年から15年計画で事業開始しましたが、21年が過ぎました。19年度末の区画整理進捗率は44%に過ぎません。完成までには



整備が進む2街区、手前から生方文庫、土岐邸、1軒とんで移転建設中の東和銀行

20年以上がかかると思われます。本町全体を8つの街区に分けて、街区ごとに事業を進めています。下之町南側の8街区は店舗移転済後、テラス沼田の駐車場整備で整備が済んでいます。真ん中の地域の3街区、4街区は一部店舗の解体や福祉施設の建設が行われ、換地の話も進み始めているようですが、中町、下之町の5、6、7街区は事業がいつになるかわかりません。住民も年を取り、店舗や住居も老朽化するばかりで、活性化のめども立っていません。これらの街区は区画整理事業待ちではなく、他の有効な事業に転換させるべきではないでしょうか。

市道の国立病院前交差点改良される

長年の懸案だった国立病院前交差点は昨年度改良され、利用者にとっては、安全性が大きく進みむとともに、変則信号がなくなり利便性も向上しました。



*連載している「沼田市政改革大綱について」は、都合によりお休みさせていただきます。

2020年9月20日

No.987

いのさんニュース

発行所沼田市下久屋町983 ☎23-1519

井之川博幸議員活動地域版部内資料